

VIVA MEXICO・・・(23) プロピーナ

レストランなど、食事を終えて席を立つときに、テーブルの上にプロピーナ（チップ）を置いていく。食事代の約10%が相場である。

メキシコで生活をしていると、常に小銭を持ち歩かないといけない。いたるところでプロピーナが必要なのだ。例えば、大型スーパーへ買い物に行く場合、まずは駐車場。バックで駐車をしようとするところに、おじさんが駆けつけてきて、笛（もしくは口笛）で誘導してくれる。頼んでもいないのだが、誘導してもらったので、そのおじさんにプロピーナを払わなければならない。私は2ペソ程（約15円）払っていた。

買い物をしてレジに並ぶ。品物をバーコードで読み取るところまでは日本と同じ。その後、品物を袋に詰めてくれる人がレジごとにいるのだ。その子へ、袋詰めをしてくれたお礼にプロピーナが必要だ。ガソリンスタンドでも、タクシーに乗ってもそれぞれプロピーナが必要になる。

ただ、時折細かいのが無く、10ペソ硬貨とか20ペソ紙幣しかない時もあった。その時は、仕方なく大奮発である。受け取ったその人は、いつも以上に満面の笑みになる。いい事をしたわけではないのだが、こちらもちょっとうれしくなるのだった。

VIVA MEXICO・・・(24) 死者の日

11月1日、2日、メキシコでは「死者の日」と呼ばれる祭日である。日本人からするとなんとも薄気味悪いような名前だが、日本で言うお盆と同じような行事が行われる。1年に1度、死んだ家族があの日から帰ってくるのが許される日。家族は祖先の魂を迎えるために、各家庭にオフレンダと呼ばれる祭壇を作り、お供え物や花（マリーゴールド）をたくさん飾る。また、この時期は、メキシコにある墓地でも同じようにお墓が賑やかに装飾される。

もともとは全く違う行事だったのだが、最近では、この死者の日と欧米での「ハロウィン」とが融合されて、死者の日に仮装をするのが習わしになっている。実は、私の行っていた学校では、子どもたちも職員も、その日1日は仮装して過ごすのである。私も4年間、仮装してその日を過ごした。1年目は魔女。2年目はプロレスラー。3年目は海賊。そして、去年はアフロダンサー。他の職員も、みんなすごい格好になる。メキシコの人たちよりも奇抜な格好だったりもする。異様な光景かもしれない。その格好で授業をするのだから。でも、お互いに楽しい気分になる。

普段とちょっと違う雰囲気の日。日本でもどうでしょう。



VIVA MEXICO・・・(21) トイレのこと

当初、メキシコで生活を始めた中で、驚きとともに、習慣的に戸惑いがあったのがトイレである。(少々汚い話になるがご容赦を。)

メキシコでは、学校のトイレにも公衆のトイレにも、便器の横にゴミ箱が置いてある。それは何のためか。実は、「拭いた紙」を捨てるためのゴミ箱なのである。メキシコの水道事情の関係なのだが、水圧が低いのと、配管の問題で、トイレトーパーを流すと、詰まってしまうのである。最初のうちは、やはり抵抗があった。しかし、トイレを詰まらせてしまうことを考えると仕方がない。

大型スーパーのトイレや公衆トイレでは、なんと便器の上にあるはずの便座がない。これも驚きである。聞くところによると、設置しても、だれかが盗んでいくのだとか。こんなものを盗んでどうするんだ！？と思うのだが、これもメキシコ事情である。このため、学校行事の遠足には、便座を持っていかなければならない。

日本のトイレは、普通に素晴らしいのである。

VIVA MEXICO・・・(22) コスモス

秋になるとあちらこちらに咲くコスモス。ピンクや白の花が秋の澄んだ青空によく映える。メキシコでもこの時期になると高原全体がピンク色に染まる。遠くから見るとピンク色のじゅうたんが敷いてあるかのようなのである。メキシコでコスモスの群生地を訪れた時は、日本にいる錯覚におちいったものだ。しかし、このコスモス。実はメキシコが原産なのだ。

メキシコは、1年中色とりどりの花が咲き乱れている。花屋さんもあちこちにたくさんあって、常にいろいろな種類の花が売られている。しかもすごく安い。

メキシコ原産の花はたくさんあって、たとえば、サルビア、マリーゴールド、ダリア、ブーゲンビリア、ポインセチアなど。日本でもごく一般的にみられる花である。

ちなみに、花ではないが、スペイン人が来る前のアステカの時代にお金の代わりに使われていた貴重な木の実があった。それは、チョコレートの原料となるカカオである。このカカオも、メキシコ原産である。



VIVA MEXICO・・・(19) 日墨交流400周年

日本とメキシコが交流を始めて昨年で400周年となった。江戸時代が始まって間もなくの1609年。フィリピンからメキシコに向かう船が千葉県沖で座礁し、遭難。その乗組員たちを近くの漁民たちが懸命に救助したのである。当時の日本人にとって外国人を見る機会はほとんどなかったはずだが、顔立ちや衣装、言語の違う人たちを普通に救助したその漁民たちの行動は素晴らしいと思う。翌1610年、江戸幕府は船を提供し、メキシコまで帰還させたのだ。これが、日本とメキシコの交流の始まりとされている。

昨年、その400周年のイベントがメキシコシティで開催された。日本の文化などを紹介するイベントに、私は「和太鼓演奏」で参加した。メキシコシティの中央を走るメインストリートは、そのまま日本を持ってきたようになった。

日本とメキシコは、この400年間、実はいろいろな出来事があったのだが、あまり広くは知られていない。今後できるだけ機会をみて紹介していきたい。

VIVA MEXICO・・・(20) マラソン練習

赴任して間もない時、体育の授業でグラウンドを少し走っただけでも息が苦しくなり、これが高地かと感じた。メキシコシティは低地に比べると、酸素量は4分の3。体が悲鳴をあげるのもわかる。赴任して1カ月後の5月に、メキシコ人の職員と一緒にサッカーをする機会があったが、ボールを追いかけてみたいと気持ちだけが前に行き、足は一つも前に出ない状態だった。逆に、メキシコの人たちは、まったく高地であることなんて関係ないように走りまわっていた。さすがである。

スポーツ選手が高地トレーニングをすることで、血液中のヘモグロビンを増やし身体能力を向上させる。私も4年間の生活で、少しはヘモグロビンの量が増えたはず？

しかし、だ。昨日から始まったマラソン大会へ向けての練習で、休み時間に子どもたちと一緒に走ったが、息が続かない。ヘモグロビンは、すでに減ってしまったのか！いやいや、もしかしたら、メキシコで息が切れていたのは、ヘモグロビンなんて関係なかったのか・・・。何はともあれ、マラソン大会に向けて、私も走らないといけない。



VIVA MEXICO・・・(17) 月と星

理科の授業で、月や星の観察をする単元に入っている。昼間に見える月を観察して、1時間にどれくらい動くのかなどについて調べている。また、星座盤を持って帰って、夜に見える星の観察もしていくことになる。

メキシコに赴任した最初の年は4年生の担任をしたので、同じように月と星の観察をする学習をした。しかし、困ったことがあった。まずは、肝心の星が見えない！メキシコシティは、残念ながら空気の非常に悪いところなのである。標高が高く、さらに周りには5000M級の山々があり、メキシコシティは、そのすり鉢状の中にあるような地形である。その中で、数千万人の人々が生活をし、何百万台という車が走っている。環境問題に少しずつ取り組んでいるとはいえ、やはり空気は悪い。星が見えないところでは、やはり学習しにくい。

もうひとつは、日本とメキシコでは、見える星座が少し違うのである。北緯19度にあるメキシコシティでは、日本では見えない星座も見られるが、日本の教科書通りにはいかない。日本人学校の面白いところであり、つらいところでもある。結局、ビデオ教材をふんだんに使いながら学習を進めるしかなかった。

守門は星空がばっちり見える。いい環境である。

VIVA MEXICO・・・(18) 独立記念日

9月16日は、メキシコの独立記念日。しかも、今年は独立200周年にあたる。1521年に、スペインから来たエルナンコルテスがアステカ帝国を滅ぼしてから約290年。今から200年前の1810年9月16日。この日はスペインからの独立を宣言し戦争を始めた日なのである。独立を達成したのはそれから11年後。独立戦争は10年以上もの歳月を要したのである。

実は、今年のもう一つ、メキシコにとって節目となる年で、メキシコ革命100周年なのである。独立200年、革命100年ということで、メキシコ国内は、おそらくお祭り騒ぎとなっていることだろう。街には、様々な大きさのメキシコ国旗がなびき、夜にはあちこちで花火が打ちあがる。ラテン系のノリと相まって、とにかく国民全員が盛り上がるのである。特にすごいのは、独立記念日の前夜15日の23時。メキシコシティの中心部(ソカロという広場)に、何万人という人たちが集まり、大統領が、当時独立を宣言した時に用いた鐘を鳴らし、「VIVA MEXICO(ビバ メヒコ) (メキシコ万歳)」と叫ぶと、その何万人もの人たちが合わせて呼応するという場面。メキシコで一番盛り上がる瞬間である。



VIVA MEXICO・・・(15) 防犯訓練

先日、校内で防犯訓練が行われた。子どもたちが歩いているところへ、車から出てきた男が「車で送ってあげるから乗っていこう」と声をかける。登校班ごとに実習をしたのだが、後ずさりしながらも不審者の話に応答する班が多く、すぐに不審者から逃げる班はとても少なかった。実際に不審者に遭遇した場合、大丈夫だろうかと不安になる状態であった。

メキシコでは・・・。子どもたちの登下校は、ほとんどが保護者の車による送り迎えである。スクールバスの子どももいるが、原則的にバスは各家庭の前に停まるようになっていて、子どもだけで歩くことは無いようになっている。治安の問題であることは言うまでもない。したがって、登下校中に誘拐等の事件に巻き込まれることはないか、というところでもない。保護者が運転する車ごと襲われることは、やはり多くあるようだ。

ある日本企業の子どもは、常にガードマンが送り迎えをしていた。驚いたのは、校外学習のときや修学旅行のときにも、その子のためにそのガードマンが同行するのだ。キャンプファイヤーをやっている時も、少し離れた所から監視をしていた。

そのような状況から比べると、日本は治安がいいといえるのだろうが、いろいろな事件に子どもたちが巻き込まれているのは事実である。子どもも私たち大人も、日頃からの防犯意識は常にもっておくべきである。

VIVA MEXICO・・・(16) 夏休み

メキシコでは、欧米と同じように、9月が年度の始まりとなっている。ということで、7月が卒業式シーズン。7月の初旬に学校が終わると、長い夏休みへと入っていくわけである。

日本人学校でも、30日ほどの夏休みがある。ほとんどの家庭が日本に一時帰国をしたり、海外や国内などへ旅行に出かけたりする。

かつて、インドネシアで大地震があり、それによる津波で観光客などが被害にあったことはご存知だと思うが、その時の教訓から、日本人学校では、泊を伴う旅行については、各家庭からも「旅行届」を提出してもらうことになったのである。万が一そのような災害や事件事故が起きた場合に巻き込まれてはいないかどうかを把握するためである。その旅行届には、旅程や搭乗する飛行機の便なども書いてもらうことになっている。

この夏休み中、世界に目を向けると、やはりいろいろな事件事故、天災が起こっていた。ニュースのたびに、日本人学校の子はいなかったかな、と思う。

須原小学校の子どもたちに 大きな事故やけががなかったようで、とてもよかった。



VIVA MEXICO・・・(13) ワールドカップ

日本代表イレブンが世界と互角に戦う姿は、私たちに勇気と希望を与えた。深夜のテレビ中継にもかかわらず、すごい視聴率だったようである。日本人のサッカー熱も、これでまたさらに盛り上がっていくのだろう。

メキシコは日本以上にサッカーに対してはものすごく熱い。

滞在中にメキシコプロリーグの試合を何度か観戦した。ワールドカップメキシコ大会における、マラドーナの「5人抜き」や「神の手」が演じられたスタジアムにも行くことができた。メキシコでのサッカー観戦は、とにかくスタジアムの上のほうの座席に座れ！というのが、日本人の間では合言葉になっている。それはなぜか。とにかく、上からいろんなものが降ってくるのである。つまり、興奮した観客が手にしたものをグラウンドに向けて投げつけるので、飲み物はもちろん、その入れ物などが飛んでくる飛んでくる。とにかく危険なのである。

それほどサッカーに熱くなる国民なので、ワールドカップともなれば、メキシコ代表の試合後は市内中心部のあちこちの道路が封鎖されて、民衆が集まり騒ぐのである。したがって、試合のある日は学校が休みになったり、午前で早帰りになったりもする。

ベスト16で終わったメキシコ代表。今はメキシコ国内も少し落ち着いたことだろう。

VIVA MEXICO・・・(14) 選挙

参議院選挙の投開票が11日に行われる。帰国してすぐに魚沼市に住民登録を済ませていたので、今回の選挙も投票できる。

メキシコにいた時も、日本の国政選挙の時には投票することができた。「在外選挙人登録」をすることで、メキシコにいながら投票することができるのである。(ただし、期日前投票。)投票会場は在メキシコ日本国大使館。なかなか普段は入ることのできない場所なので、緊張しながら投票をしたのを覚えている。「この敷地内は日本なんだよな。」なんて思いながら。

さて、メキシコ国内の選挙も1度経験をした。赴任1年目に、大統領選挙が行われたのである。(当然私に選挙権はないので傍観していたわけだが。)メキシコ大統領の任期は6年。再任は認められていない。

その選挙で、まれにみる僅差で落選をした候補が、集計などに不正があったとして、票の数え直しを訴え、数カ月にもわたり、メキシコ市中心部および道路を、支援者たちとともに占拠したのである。市民の生活にもその影響は大きく、道路の周辺にある店などは営業もできず大きな打撃を受けた。結局、その訴えも聞き入れられず、終息したのであるが・・・。

この年は、ワールドカップと重なった大統領選挙。2つのイベントが24年に1度重なる。だから普段よりも熱く、こんなことが起きた、というわけではないだろうが。



VIVA MEXICO・・・(11) メルカド

メキシコシティでは、あちこちで決まった曜日に、道路を通行止めにしてメルカドができる。メルカドとは、スペイン語で「市」のこと。いろいろなお店がぎっしりと道の両側と真ん中に並び、商品も様々な物が並ぶ。農家の方が出店している八百屋さんのテントでは、スーパーのものとは違い、とても新鮮な野菜が所せましと売られている。しかも安い。果物屋さんには、南国のフルーツが年中並び、その店の前を通ると、「アミーゴ！おいしいよ」と切り分けて食べさせてくれる。それがまた、本当においしい。そして、そのおいしさと安さにつられ、つい買ってしまうのである。

メルカドに並んでいる商品は食品だけではない。DVD屋さんもある。なんと、封切りされたばかりの映画のものが既に店先に並んでいる。1枚30ペソ～50ペソ。約300円。買った人から聞くと、映画館で録画したもので、時折、歩いている人の影が映っているとか。それから、ネクタイ屋さん。バーバリーのネクタイが100ペソ。(約700円)明らかに偽物だが、とても見分けはつかない。メキシコでは、「なんでもあり」である。

ワールドカップ前に中国製のコピー商品がまた出回っている、というニュースを見たとき、このメルカドのいろいろな商品のことを思い出した。

VIVA MEXICO・・・(12) 学校施設

メキシコの公立校に何度か訪問する機会があった。学校の様子を見て最初に驚いたことは、学校の施設のことである。訪問した学校のほとんどが、校舎は1階建て。教室はせまく、窓が少ないことで、薄暗い。教室の中には、ロッカーなどが無いので、子どもたちが持ってきたかばんなどは、机の近くに置いてある。雨具かけのようなものもない。トイレは水洗ではなく、手を洗う水道すらない学校もあった。

校舎の外に出ると、まず、グラウンドがないことに驚く。あるのは、バスケットボールコート程の広場である。休み時間には、そこでサッカーに興じる子どもたちであふれる。当然プールなどあるはずもない。

赴任した「日本メキシコ学院(社団法人)」は、メキシコ人の子どもたちも通う国際校。公立校とは比べ物にならないほど、施設設備が充実している。グラウンドは2つあり、1つは全天候型のもの。もうひとつは芝。プールは、温水で1年を通して入ることができる。もちろんシャワーも温水。体育館、そして、ちょっとしたコンサートが開けるほどの講堂もある。ちなみに学費は月5万円ほどである。

メキシコにある、一部の私立校に通える子どもたちと、そうでない子どもたちとの教育を受ける環境の差は、やはり大きいと感じざるを得ない。メキシコの社会問題のひとつである。



VIVA MEXICO・・・(9) 運動会

私が赴任した学校は、同じ敷地内にメキシコの子ども達が通うメキシココースがあり、グラウンドなどの施設が全て共有となっている。学校行事では、そのメキシココースと日本コースとが一緒に参加する。運動会もその行事の一つである。運動会という「文化」はメキシコにはないので、メキシコ国内で唯一開催している学校、ということになる。

特徴として、以下のようなことが挙げられる。毎年11月初旬に開催するのだが、この時期、メキシコは乾季となっているため、雨の心配はほとんどない。雨天の心配をしなくてもいいのは、運営上とても楽である。赤組と白組に分かれるところは日本と一緒に。競技は、メキシコ人、日本人混合で行われる。(決してメキシコ対日本ではない。) 団長は存在するが、応援団は組織されていない。応援練習をする時間が設定するのが難しいのが主な理由だ。競技種目の説明や実況など、アナウンスはすべてスペイン語と日本語が交互に行われる。閉会式では、優勝したチームがグラウンドをみんなで走る「ウイニングラン」が行われる。日本では味わえない光景と雰囲気。この辺は、さすがラテンの国である。

スローガンも作られる。昨年のスローガンは「2つの文化を一つの心で」。～国籍、文化、環境生活様式など、いろいろな面で違いがある民族同士だが、心をひとつにして、一緒になって1つの目標に向かってやり遂げよう～。

さて、須原小の運動会。子どもたちには日本の文化、地域の伝統を背負って頑張ってもらいたい。

VIVA MEXICO・・・(10) 水

メキシコシティは、標高2200m以上の高地であり、非常に乾燥している。湿度は20%以下で、洗濯物がすぐに乾いてくれるのは助かるが、身体にはいろんな影響がある。特に身体の水分である。身体からはどんどんと水分が逃げていくので、すぐにのどが乾いてくる。日本では少し運動すれば汗がにじみ出てくるが、メキシコシティでは汗が出ない。いや、出ないのではなくすぐに蒸発しているのだ。

水分を補うために、メキシコでは常時ペットボトルを持ち歩いていた。学校でも子どもたちは毎日水筒、ペットボトルを持参し、必要に応じて授業中でも飲むように指導していた。

ここで日本のすばらしいところを再確認するのである。水道水である。蛇口から出てくる水をガブガブと飲める幸せ。メキシコでも水道水は浄水場できれいになっているはずだが、蛇口から出てくる水は怖くて飲めない。当然、学校でも同様で子どもたちは水道の水を飲むことはない。我が家では、浄水器を付けていたのだが、ほんの数日でフィルターは茶色く染まってくる。時には、そのフィルターに「生物」を確認することもあった。お米をとぐのは、そのフィルターを通した水道水を使ったが、炊くときには、やはりペットボトルの水を使った。(毎月購入するペットボトルの水の量は半端ではない。)

社会科で、水にかかわる学習が始まる。通常の内容とともに、日本の水のすばらしいところも子どもたちに気づかせていきたい。



VIVA MEXICO・・・(7) 国歌

先日退勤後、家族とともに新潟市にあるビッグスワンに行った。日本女子代表「なでしこ JAPAN」とメキシコ代表との試合を観戦しに行くためだ。実は、メキシコ赴任中にもこのカードを観戦したことがある。今から3年前、北京オリンピックの予選で、メキシコシティの隣にあるトルーカという街で試合が行われたのである。トルーカは、標高がメキシコシティ(2200m)よりもさらに高い2600mほどあり、運動をするにはとてもつらい場所である。運動量に勝るメキシコ代表が2対1で勝利した試合だった。

さて、先日の試合。試合前に両国の国歌が吹奏される。まずはメキシコ国歌である。メキシコ赴任中、諸行事には必ず歌ってきたので、私も多少なり歌うことができる。ビッグスワンに来ている観客の中で、もしかしたら私たち家族だけだっただろう、メキシコ代表と一緒にメキシコ国歌を歌った。周りからの視線を少々感じつつも、なんだか懐かしく嬉しい気持ちになった。日本で、しかも新潟でメキシコ国歌を歌えることが妙に気持ちよかったのである。メキシコに赴任した時に、当時の校長から言われた「メキシコが第二のふるさとなりますよ。」という言葉がよみがえった瞬間であった。

試合結果は3-0で日本代表が快勝。私がどちらのチームを応援したかは、あえて明記しないでおこう。

VIVA MEXICO・・・(8) 避難訓練

先日、学校で今年度最初の避難訓練が行われた。火事を想定しての訓練だった。子どもたちは今までの訓練の積み重ねがきちんとされていて、とてもきちんとした態度で臨んでいた。

さて、メキシコでも避難訓練は行われる。しかも、毎月実施されるのである。これは、法律で定められていることなので、メキシコ国内の学校は、決められた期日に必ず行うことになっている。(しっかりと訓練が実施されているか、政府から抜き打ち検査が行われることもある。)

メキシコは、日本と同じように地震の多い国で、1985年には「メキシコ大地震」を経験している。M8.1、死者・行方不明者約2万人(推定)。メキシコシティは、かつて大きな湖であったため、地盤が非常に弱く、また、建物の作り方もずさんなため、倒壊した建物も多かったようである。

赴任中にも何度も地震があったが、そのうち1度だけ、本当の「避難」も実施された。いのちを守るために、普段からしっかりと備えておくことは、やはり大切である。



VIVA MEXICO・・・(5) 家庭訪問

今週から始まった家庭訪問。メキシコの日本人学校では、家庭訪問という学校行事はなかった。その理由は治安面にある。須原小校区であれば、ほんの少しの間、車を路上等に駐車してもほとんど問題にはならない。しかし、メキシコでは事情が違う。とにかく犯罪の多い国。いつ何時、犯罪者が狙っているか分からないという状況である。車を路上に停めることが問題なのではない。路上駐車は日本とは比べ物にならないくらいゆるいわけで、逆にいえば、路上駐車は一つの文化でもあるといっても過言ではない。(メキシコ人は縦列駐車がとっても上手い。いや、少々ぶつけても気にしない。)しかし、路上に駐車している間に、何がなくなってもおかしくはないわけである。ことに、日本人が運転してきた車であるわけだから、犯罪者からは狙われやすい。タイヤはもちろん、車の中に置いてあるもの、ハンドル等内装などなど。当然、車ごと無くなってしまうこともありうる。

ただし、昨年5月。新型インフルエンザで1か月以上休校になった時には、訪問をやるべきと判断。在籍数の65%は日本などメキシコ国外へ避難していたので、家庭数は半数以下であった。担任と級外の職員2~3人態勢で出発。担任が家庭にいる間、他は車に残り辺りの様子に気を配るわけである。こうして家庭訪問は無事終了。担任は、子どもたちの笑顔にホッとするのであった。

VIVA MEXICO・・・(6) SiとNo

日本語での「はい」と「いいえ」は、スペイン語で「Si (シー)」と「No (ノー)」という。日本人学校と家庭との行き来だけでは、スペイン語を使うことはほとんどないのだが、買い物や旅行に出かけたときには、やはり多少なりスペイン語が必要となってくる。

ある時、車のガソリンを入れるために、ガソリンスタンドへ入った。「ガソリンを満タンでお願いします。」と(当然スペイン語で)言った。これさえ言えばあとは、お金を払い、チップを渡して終わりである。が、そのスタンドでは、何かのキャンペーンだったのか、ガソリンに混ぜる液体(おそらくエンジンにいい液体なのだろう)を勧めてきたのだ。べらべらとスペイン語でその商品の宣伝をしてきたが、ほとんど意味は分からず、「No、No」と断った。相手は執拗に勧めてきたが、最後に念を押すために「No?」と聞いてきたので、私は迷わず「Si」と答えたのである。ホッとしたのもつかの間。相手は、嬉しそうに、その液体をガソリタンクへ入れてしまったのである。ガソリン代プラスその液体の代金を支払うことになってしまった。

日本語での「はい」と「いいえ」であれば、使い方として間違っていなかったのだろうが、その後のスペイン語生活に役立つ失敗であった。



VIVA MEXICO・・・(3) 日本食

メキシコで生活を始めて、日本と勝手が違うことで減入ってしまうことが多くある。毎日欠かすことのできない食事。これについては、とにかく現地に慣れるしかない。日本人の経営による日本食を扱っているスーパーが数軒あるのだが、その値段は日本の3倍から5倍。キューピーマヨネーズは、円に直すと1000円ほどである。当然、子どもたちのおやつも高いわけで、子どもたちをつれて買い物に行っても、「おやつは我慢！」ということもしばしばであった。輸入品であるわけだから仕方ない。日本食ばかりで過ごすことは会計上不可能である。ちなみに、お米はコシヒカリも含めいろいろと売っているが、そのほとんどがカリフォルニア米なので、日本のそれとは違う。「早くアツアツの魚沼産コシヒカリに生卵をかけて食べたい。」と切願したものだ。(たらこ、明太子、イカの塩辛なども、思い出すたびに、ため息である。)

しかし、メキシコに慣れてくると、メキシコ料理が不思議なくらい自分の舌に合ってくる。トウモロコシの粉で作ったタコス、豚骨スープのポソレ、ソパ・デ・トルティーヤ・・・。日本食をおいしく食べられるようになったとたんに、メキシコ料理を恋しく思う。なんとわがままな。

VIVA MEXICO・・・(4) 運転免許証

メキシコに到着した次の日の朝、メキシコの運転免許を取得しに行った。日本の感覚であれば、自動車学校へ行って実技試験、学科試験を受けて合格したら取得、という流れが想像できるが、全くそうではない。実は、赴任前に免許取得のために「名前と住所と電話番号と・・・をスペイン語で言うようにしておけ」という指示が出ていた。とはいえ、赴任前後はスペイン語なんか覚えるような暇はほとんどない。時差ボケの中一夜潰けもとうてい無理である。

新赴任者がバンに乘せられて出発。免許センターのようなところへ連れて行かれるのかと思いきや、入っていったのは大型スーパー。なんと、そのスーパーの一角に免許が取得できる一室があるのだ。そこへ入り、順番を待つ。緊張が高まる。自分が呼ばれる。カウンターに着く。そして相手が質問をしてきた。「・・・ノンブレ・・・」。単語がひとつ聞き取れた。名前のことだ。しかし、その後はしどろもどろになったことは言うまでもない。ただ、相手が優しい方でよかった。カンニング用のメモを相手に渡し、あとは、その方がメモを見て用紙に記入してくれた。手続き完了。写真をとって、指紋をとって、サインを書いて、お金を払って終了。なんと期限がない“永久ライセンス”である。

しかし、こんなに簡単に運転免許が取れてしまうというのも考えものだ。メキシコの道は恐ろしい。



VIVA MEXICO・・・(1) 時差ボケ

メキシコと日本との時差はマイナス15時間。日本の時刻から3時間を引いて昼夜を逆転させるとメキシコの時刻となる。サマータイムを採用しているので、4月の第1日曜日から10月の最終日曜日までの時差はマイナス14時間となる。サマータイムの間は、日本と1時間だけ近くなる、といった感じである。

4年前、メキシコに到着した次の日の朝から、新任地での生活立ち上げが始まった。当然、強烈な時差ボケの中である。体は睡眠を要求しているのに、メキシコのガラガラとした太陽が容赦なく照りつけ寝ないようにホッペをばしばし叩いているようである。身も心もグルグルした中で、車の免許を取得したり、銀行で口座を開いたり、あちこちに連れて行かれながらメキシコ生活がスタートしていったのである。時差ボケが解消されるまで、かれこれ1ヶ月ぐらいはかかったような気がする。

ちなみに、日本に帰国後、日本の時刻に慣れる方がはるかに楽だと感じた。やっぱり自分は日本人なんだな、と感じる部分である。

VIVA MEXICO・・・(2) サルー

メキシコの方々は、とにかく愛想がいい。さすがみんながアミーゴ（友達）の国である。ブエノスディアス（おはようございます）、ブエナスタルデス（こんにちは）、ブエナスノーチェス（こんばんは、おやすみ）というあいさつが、ふつうに飛び交う。オラ！（やあ！）という気軽なあいさつは、もっと日常的である。

私がある時、買い物をしている最中、公衆の面前でくしゃみをしたときのことである。見ず知らずの人たちから「サルー」と言われた。最初は何を言われたのか分からなかったのだが、「サルー」とは、「大丈夫？お大事に」という気持ちが込められている言葉だということを知った。（他に「乾杯！」という意味もある。）日本にはあまりない文化だと感じた。「サルー」と言われたら、「グラシアス（ありがとう）」と言うことを忘れてはいけない。

花粉症の時期は大変だ。メキシコでは、特に12月から2月にかけて、ハカランダという木に咲く花の花粉が飛び交う。くしゃみを連発するたびに、「サルー」といわれてしまうわけで……。しかし、相手を気遣う「サルー」という言葉。メキシコの気候同様、あたたかいものである。

